

北海道立大沼学園 がくえんのようす



令和3年（2021年）

（令和2年度実績）

北海道立大沼学園

〒041-1355 北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

電話（0138）67-2014

FAX（0138）67-2032

e-mail:hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

HP:<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

目 次

1. 発刊にあたって	2
2. はじめに	3
3. 分校より	4
4. 施設概要	6
5. 行事表	8
6. 事業概要	10
7. 生活支援について（総括）	13
8. 児童の入退所	16
9. 退所児の進路	17
10. 児童基本情報	18
11. 分校教育との連携と評価	20
12. 実科生指導	21
13. 野球部	22
14. 小学生クラブ	23
15. 和太鼓クラブ	24
16. 進学クラブ	25
17. 研修実施状況	26
18. ケースカンファレンス	27
19. 苦情処理状況とその対応	28
20. 関係機関・地域との連携	29
21. 退所児童事後支援（アフターケア）	30
22. 要保護児童対策地域協議会参画実績	31
23. 給食業務	33
24. 心理業務	34
25. 児童の動態状況	36
26. あとがき	38

1 発刊にあたって

園長 赤坂 秀彦

当園で毎年発刊している「がくえんのようす」については、前年度の実績を次年度に報告させていただいております。

令和3年版についても、本年の発刊をめざし、昨年度末から職員たちが作業を進めてまいりましたが、年度が変わり、園長をはじめ執筆を担当した複数の職員が学園から離れることとなりました。

しかしながら、昨年の子どもたちと多くの時間を共有し、子どもの変化などを目の当たりにしてきた職員の報告は換え難いものと考えましたので、編集当初の原稿のまま発刊することといたしました。

本年度で交代制寮を導入し3年目に入りますが、より望ましい支援体制を構築していく変化の最中にある学園の状況について、ご高覧いただければ幸いです。

2 はじめに

前園長 米田 浩二

当園は、2019年から夫婦寮と交替寮が併存する寮舎体制となり、現在は夫婦寮（芝蘭寮）と交替寮2寮（蛍雪寮、晩翠寮）の3寮が稼働しています。

交替寮については、若手職員が主体ではありますが、自立支援課長や主査（自立生活支援）などのスーパーバイズに加え、約2年の経験で得られたスキルや研修等による知識により徐々に自信を深めている状態にあります。

本道においては、全国と同様、児童虐待対応件数が増加の一途をたどっており、その影響が社会的養護（施設入所等）の対象児童、ひいては当園における入所児童の虐待歴の高さとなって現れています。

障害等のある児童についても自閉症スペクトラムを中心に対象の割合が増加しており、生育歴が不明で確定診断には至らないが同様の状態像を呈している児童を含めるとその割合はさらに高まる状態にあります。

そのような児童の状態像の変化に伴い、ケアニーズは高まっていますが、児童自立支援施設として求められる役割もあり、「守るべきもの」と「変えるべきもの」とを十分に吟味しながら、支援方法や内容の検討、職員配置、寮舎の増改築などの諸課題を乗り越えていかなければと考えています。

支援については、問題行動等の背景やメカニズムの共通理解、適切な関わりなど有効な支援方法の確認、検討をしながら、児童自立支援施設としての平均的活動が可能となるスタートラインまで引き上げる児童の割合が増えていること、寮舎についても、クールダウンのスペースや個別用浴室の設置など環境整備の必要度が高まっています。

当園を退所した児童のアフターケアについても当園での単独支援では十分にニーズに対応できない状態にあり、地域の関係機関・関係者の力を積極的に借りるなど連携の工夫の必要性を強く感じています。

今後とも児童相談所をはじめとする関係機関・関係者におけるニーズや他府県の児童自立支援施設等の動向を把握しながら、地域に期待される児童自立施設を目指す歩みを続けていきたいと考えています。

3 分校より

「これからの十年も」

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校
前 教 頭 村 井 雄 一

全国的なコロナ禍のあおりを受け、鈴蘭谷分校も、臨時休校や学校行事の中止など、教育活動が制限された1年でした。いつもと違う学校生活の中で、子どもたちはきっと窮屈な思いをする場面があったことでしょう。しかし、子ども達の日常の学校生活を振り返ると、当たり前の日常がどんなに尊いものなのか、子どもたちが鈴蘭谷分校で学ぶこと、学校行事を通して多くの経験することは、どんなに有意義なことなのかと、あらためて考え、実感する1年でもありました。

緊急事態宣言が明け、行事らしい行事をやっとなることができたのは、7月の環境整備活動でした。自分たちが生活する学園の敷地内を自分たちの手で整備する活動に汗を流していた子どもたちの姿や学園と分校の職員も一緒に参加し、子どもたちと「協働」する姿がとても印象的でした。



短くなってしまった夏休みの後、後期課程(中学校)では3年生が修学旅行に出かけました。



他県への往来を伴うことが多い修学旅行を延期や中止にする学校が数多くある中、鈴蘭谷分校は感染防止対策を徹底し、実施することができました。感染防止の活動は、教師や学園職員、添乗員にしてもらうのではなく、生徒自らがマスク着用はもちろんのこと、バスや列車内では会話を控える、移動に伴う乗車の際は消毒スプレーを積極的に使用するなど、自分たちで考えられる限りの対策を行い参加していました。旅先では、子どもたちが見せる「いい顔」に、実施してよかったと心から思いました。コロナ禍の終息を見通せないこれからの学校行事の実施における、一つの姿を見たような気がしました。

前期課程(小学校)も6年生の修学旅行を実施しました。担任の先生と一対一で過ごした一泊二日の旅は、どこか「親子旅」のようにも見えるほどのあたたかい雰囲気でした。よく準備され、行き届いた思い出に残る旅行でした。



大沼学園、鈴蘭谷分校で最も盛大な行事といえるのは学園祭です。飛び切りの集中力で練習以上の力を発揮する、「本番に強い！」鈴蘭谷の子どもたちの姿を見ることができました。どの演目も、これまでの練習の成果が十分に発揮されていました。時に厳しく、時に暖かく、そして時に粘り強く子どもたちの指導、支援を行ってきた学園・分校の職員の愛情深い取り組みの結果であると思います。特に印象深かったのは太鼓の演奏です。一体感のあるとても素晴らしい発表で、岳陽学校での公演だけでなく、地域の行事にも出演、披露できるとよいと思ったほどです。とても



誇らしい、子どもたちの姿でした。「やるかやらないかの二者択一的な対応ではなく、どうしたら実施できるかを考える——。」コロナ禍でまだ先が見通せない新年度も、子どもたちの成長の場であり、その成果が見られる行事の取り組みを、いっそう大切にしたいと思います。

七飯町は、「子どもたちが通いたい学校」、「親が通わせたい学校」、「教師が働き甲斐を感じる学校」を目指しています。つい先日行われた前期課程の「ありがとう会」では、6年生児童が作文の中で、「コロナで休校期間があったが、僕は学校が好きなので、学校が再開した時はうれしかった」と発表していました。これからも子どもたちにとって通いたい学校であり続けるためには、学園と分校の連携が不可欠です。鈴蘭谷分校開校から約十年が過ぎた今、自立支援課長からいただいた「これからの十年を、学園と分校で共に考えていきたい。」という言葉を大切にしたいと思っています。これからの十年も、子どもたちの健やかな成長と自立を願い、学園と分校で、共に歩んでいきたいと思っています。

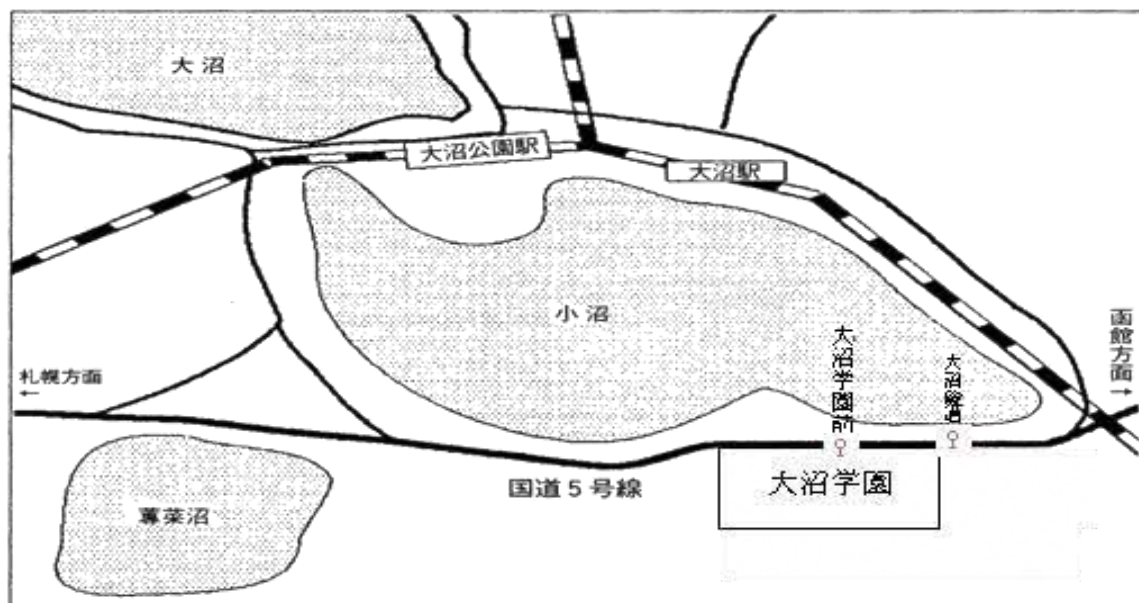
4 施設概要

北海道立大沼学園			
所在地	〒041-1355 北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地		
電話	0138-67-2014	F A X	0138-67-2032
E・mail	hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp		
交通	JR函館本線「大沼駅」(普通のみ)下車、徒歩40分、タクシー10分 JR函館本線「大沼公園駅」(特急可)下車、徒歩1時間、タクシー15分 函館バス、函館駅-森・長万部、「大沼学園前」下車、徒歩1分 函館バス、函館駅-大沼・鹿部、「大沼隧道」下車、徒歩5分		
入所定員	48名		

職名	氏名	担当
園長兼庶務課長	米田 浩二	総括
庶務係長	渡辺 伸哉	庶務係統括
指導専門員	熊澤 美雪	栄養管理
主事	三澤 快斗	庶務担当
自立支援課長	阿波 加忠純	自立支援課総括
主査(自立生活支援)	多田 将士	本館業務総括、芝蘭寮副担当
主査(自立生活支援)	斉藤 利昭	寮業務総括、芝蘭寮担当
主査(心理療法)	鈴木 大介	心理療法担当
専門主任	斉藤 孝宏	実科(作業班)担当、芝蘭寮副担当
専門主任	斉藤 淳子	芝蘭寮担当
専門主任	筑間 久枝	蛍雪寮副担当
専門主任	山口 大輔	晩翠寮副担当
福祉専門員	片石 健太	蛍雪寮担当
福祉専門員	大谷 遼	晩翠寮副担当
福祉専門員	渡部 準矢	蛍雪寮副担当
児童自立支援専門員	高橋 和輝	蛍雪寮副担当
児童自立支援専門員	奥田 寛崇	芝蘭寮副担当
児童自立支援専門員	松山 一也	蛍雪寮副担当
児童自立支援専門員	中山 雄太	蛍雪寮副担当
児童自立支援専門員	藤田 怜	晩翠寮副担当
児童自立支援専門員	高間 拓希	蛍雪寮副担当
福祉指導員	鹿島 直人	晩翠寮副担当
福祉指導員	平田 俊一	晩翠寮担当
福祉指導員	蠣崎 玲央	晩翠寮副担当
福祉指導員	伊藤 凌	蛍雪寮副担当
福祉指導員	成田 健吾	芝蘭寮副担当
福祉指導員	木村 正和	晩翠寮副担当
福祉指導員	佐藤 秀介	晩翠寮副担当

非常勤公務補	佐々木 晴 美	事務補助
非常勤児童自立支援員	水 島 彰	実科（作業班）副担当
非常勤児童自立支援員	大 野 陽 一	実科（作業班）副担当
非常勤嘱託医	宮 村 拓 郎	内科・小児科
非常勤嘱託医	加 藤 知 子	精神科
七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校		
校長（中学校兼務）	樽 山 聡	（本校）
教頭（中学校兼務）	村 井 雄 一	分校運営
教 諭	小 林 義 治	担任
教 諭	阿 部 伸 郎	特別支援級担任
教 諭	大 日 向 裕 文	全副担任
教 諭	日 登 晶 子	全副担任
養 護 教 諭	片 山 乃 里 恵	養護
事 務 職 員	工 藤 恒	事務全般
七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校		
校長（小学校兼務）	樽 山 聡	（本校）
教頭（小学校兼務）	村 井 雄 一	分校運営
教 諭	戸 田 修	1年生担任、英語
教 諭	船 越 健 治	1年生副担任、国語
教 諭	中 西 和 弘	2年生担任、体育
教 諭	松 本 徹	2年生副担任、社会
教 諭	秋 野 雅 樹	3年生担任、数学
教 諭	古 川 哲 治	3年生副担任、理科
教 諭	佐 藤 廣 賢	特別支援級担任、技術
教 諭	秋 重 雅 彦	特別支援級副担任、音楽
教 諭	松 坂 稔 巳	特別支援級副担任 美術・家庭

案 内 図



5 行事表

曜	4月	日曜	5月	日曜	6月	日曜	7月	日曜	8月	日曜	9月
1 水		1 金	湖畔清掃 中止	1 月	衣替え	1 水		1 土		1 火	
2 木		2 土		2 火		2 木		2 日		2 水	環境整備活動
3 金		3 日	憲法記念日	3 水		3 金		3 月	一時帰省開始	3 木	
4 土		4 月	みどりの日	4 木		4 土		4 火		4 金	
5 日		5 火	こどもの日	5 金		5 日		5 水		5 土	
6 月		6 水	振替休日	6 土		6 月		6 木		6 日	理髪5
7 火	着任式・始業式・ 二計測・視聴力検査	7 木		7 日		7 火		7 金		7 月	開校記念日 内科検診
8 水		8 金		8 月		8 水	環境整備活動	8 土		8 火	
9 木		9 土		9 火		9 木	期末テスト(中)	9 日		9 水	
10 金	学カテスト(中全)	10 日		10 水	避難訓練	10 金	期末テスト(中)	10 月	山の日	10 木	学カテスト(中3総合 A)
11 土		11 月		11 木		11 土		11 火		11 金	会場設営 リハーサル
12 日		12 火	尿検査2次 延期	12 金		12 日		12 水		12 土	第71回 大沼地区少 年野球大会
13 月	授業参観日	13 水		13 土		13 月		13 木	一時帰省終了	13 日	
14 火		14 木	耳鼻科検診 延期	14 日	理髪3	14 火		14 金		14 月	振替休校(9/12)
15 水	医診	15 金		15 月		15 水	医診	15 土		15 火	振替休校(9/13)
16 木		16 土		16 火		16 木	薬物乱用防止教室	16 日		16 水	医診
17 金		17 日	理髪2	17 水	医診	17 金		17 月	始業式 内科検診	17 木	避難訓練
18 土		18 月	内科検診 心電 図検査(中1)延期	18 木		18 土		18 日		18 金	
19 日	理髪1	19 火		19 金		19 日	理髪4	19 水	医診	19 土	
20 月	内科検診	20 水	医診	20 土		20 月	内科検診 不審者 被害防止教室	20 木		20 日	
21 火		21 木	運動会総練習 中止	21 日		21 火		21 金		21 月	敬老の日
22 水	歯科検診 延期	22 金		22 月	内科検診	22 水		22 土		22 火	秋分の日
23 木	尿検査1次 延期	23 土	運動会 中止	23 火		23 木	海の日	23 日		23 水	修学旅行(中3)~25日
24 金		24 日		24 水		24 金	スポーツの日	24 月	水泳学習(小)	24 木	
25 土		25 月		25 木		25 土		25 火		25 金	社会科見学(小)
26 日		26 火		26 金		26 日		26 水		26 土	
27 月		27 水		27 土		27 月		27 木	学カテスト(中全)	27 日	
28 火		28 木		28 日		28 火		28 金		28 月	マラソン大会
29 水	昭和の日	29 金		29 月		29 水		29 土		29 火	
30 木		30 土		30 火		30 木		30 日	理髪5	30 水	マラソン大会予備日
		31 日				31 金	終業式	31 月			

日	曜	10月	日	曜	11月	日	曜	12月	日	曜	1月	日	曜	2月	日	曜	3月
1	木	衣替え 修学旅行(小6)~2日	1	日	理髪6	1	火		1	金	元日	1	月	雪像制作開始	1	月	
2	金		2	月		2	水		2	土		2	火		2	火	
3	土		3	火	文化の日	3	木		3	日		3	水		3	水	
4	日		4	水		4	金		4	月		4	木		4	木	
5	月		5	木	学園祭総練習	5	土	ソロプチミスト・クリスマス会	5	火		5	金	雪像制作終了	5	金	
6	火		6	金	学園祭前日準備	6	日	理髪7	6	水		6	土	大沼雪と氷の祭典	6	土	
7	水		7	土	学園祭	7	月	授業参観日	7	木	一時帰省終了	7	日	大沼雪と氷の祭典	7	日	
8	木		8	日		8	火		8	金		8	月		8	月	内科検診
9	金		9	月	振替休校(11/7)	9	水		9	土		9	火		9	火	
10	土		10	火		10	木		10	日		10	水		10	水	避難訓練
11	日	理髪6	11	水	学カテスト(中3総合C)	11	金		11	月	成人の日	11	木	建国記念の日	11	木	
12	月	授業参観日 道政パネル展~16日	12	木		12	土		12	火		12	金	スキー学習3	12	金	
13	火		13	金	文化系クラブ岳陽学校公演活動	13	日		13	水	百人一首大会	13	土		13	土	
14	水		14	土		14	月	内科検診	14	木	百人一首大会	14	日	理髪9	14	日	理髪10
15	木	学カテスト(中3総合B)	15	日		15	火		15	金		15	月	内科検診	15	月	
16	金		16	月	内科検診	16	水	医診	16	土		16	火		16	火	
17	土	大沼地区文化祭	17	火		17	木		17	日	理髪8	17	水	医診	17	水	医診
18	日	大沼地区文化祭	18	水	医診	18	金	携帯スマホ教室	18	月	始業式	18	木	冬の体験学習(小)	18	木	卒業式総練習
19	月	内科検診	19	木		19	土		19	火		19	金		19	金	卒業生激励会
20	火		20	金		20	日		20	水	医診 期末テスト(中3)	20	土		20	土	春分の日
21	水	医診	21	土		21	月		21	木		21	日		21	日	
22	木		22	日		22	火	大掃除	22	金	スキー学習1	22	月	授業参観日	22	月	卒業証書授与式
23	金		23	月	勤労感謝の日	23	水	終業式	23	土		23	火	天皇誕生日	23	火	
24	土		24	火		24	木	もちつき	24	日		24	水		24	水	修了式
25	日		25	水		25	金		25	月	内科検診	25	木	期末テスト(中1・2)	25	木	
26	月		26	木	期末テスト 社会科見学(小)	26	土		26	火		26	金	期末テスト(中1・2)	26	金	
27	火		27	金	期末テスト	27	日		27	水		27	土		27	土	
28	水		28	土		28	月	一時帰省開始	28	木		28	日	函館心の里親会激励会	28	日	
29	木		29	日	理髪7	29	火		29	金	スキー学習2				29	月	
30	金	環境整備活動	30	月		30	水		30	土					30	火	
31	土					31	木		31	日					31	水	

6 事業概要

前自立支援課長 阿波加 忠純

【基本方針に基づく事業の概況】

- 1 児童の健康な生活を保障する（生活指導）
 - ・3寮を運営し、うち2つの交替寮の運営も軌道に乗せることができた。
 - ・児童精神科への定期受診と継続服薬を要する児童が15名在籍した。
 - ・月に一度の嘱託医による内科検診を実施し、加えて分校が実施する各種検診の結果について文書で勧奨通知を受け、整形外科、眼科、耳鼻科、歯科についても健康管理を徹底した。
- 2 児童の教育を保障する（分校との連携）
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、分校は前年度末におよそ1ヶ月臨時休校となったのに続き、4月20日から5月末まで再び臨時休校となった。部分的であったが、施設職員による本館学習指導を実施した。
 - ・日々の学習活動においては、施設職員がチームティーチングの形態で授業に参画し、分校教員とともに学習指導を展開した。
 - ・児童の生活状況や問題行動については、施設職員と分校教員が随時情報を共有してより効果的な関わり方を模索した。
- 3 生活、学習、作業、クラブ活動、各種行事などを通じて、児童の知・徳・体の涵養を図る（生活指導、学習指導、作業指導、クラブ指導、行事企画実施）
 - ・クラブ活動は、通年で野球部と小学生クラブ、秋季に和太鼓クラブ、さらに秋冬季には高校進学希望者に対する進学クラブ、実科生と就職希望者に対する作業クラブを展開した。
 - ・行事については、新型コロナウイルス感染症禍の影響で、特に年度前半の運動会などを中止せざるを得なかった。しかし、その後のキャンプ、学園祭などは、感染症の予防対策を講じて、規模や内容を工夫して実施した。
- 4 中卒児童の支援を充実させる（中卒児童の支援）
 - ・年度当初から年度末まで2名の実科生（中卒児童）が在籍したため、学習指導及び作業指導を中心とした支援を展開した。
 - ・心理療法担当職員によるソーシャルスキルトレーニング、公立図書館やハローワークの利用体験、地域への花苗の運搬や花壇整備作業などを通じて、社会性の向上を図った。

- 5 心理療法、医学診断の実施、情報共有等により、児童が抱える困難さの改善を促し、支援者のスキル向上を図る（心理的ケアの実施）
 - ・在籍児童全員を対象として、合計 276 回の心理療法を実施した。また、「性加害児童支援プログラム」を 3 名に対し、合計 27 回の支援を実施した。
 - ・日常の心理療法の結果は寮担当職員等へ報告され、児童の状態把握、支援方法の検討を行った。また、支援会議において、児童の心理アセスメントの結果も踏まえて、今後の支援方針について検討した。
 - ・嘱託医（児童精神科）による医学的診断を月 1 回実施し、児童の支援方法等について助言等を受けた。また、本年度は同嘱託医の協力により、コミュニケーションに焦点を当てた心理養育的介入プログラム「CARE（Child-Adult Relationship Enhancement）」の講習を学園、分校共同で実施し、合計 10 名が受講した。
- 6 児童の権利擁護、被措置児童虐待防止について職員の認識を向上させ、環境を整備する（権利擁護）
 - ・本年度は 3 年に一度の第三者評価を受審した。
 - ・被措置児童等虐待防止についての職員研修会を実施した。
 - ・児童の権利擁護の一環として苦情解決の仕組みを機能させ、主に「意見箱」による意見表明を受付けた（1 件）。
- 7 児童相談所など関係機関に必要とされるために、相互理解と連携に努める（関係機関との連携）
 - ・本年度は 10 名の入所があり、ひと月の平均在籍児童数は 20,25 名であった。
 - ・要保護児童対策地域協議会個別ケース会議への出席（3 件）のほか、経過判定（診断）や一時保護の児童移送などで情報の共有を図った。
 - ・児童の支援を進めるために児童相談所との連携（来園面接調査 29 名、一時保護 16 名、心理検査 3 名 ※いずれも延べ人数で、入所児童の移送で来園した際に声かけしたものは除く）を行った。
- 8 地域に理解され必要とされるために、積極的な広報に努め、交流参加を図る（地域交流、広報）
 - ・花苗は 1 万 2 千株あまりを栽培育成し、地域や関係機関に配布して役立ててもらった。
 - ・歴史ある行事の一つ「大沼地区少年野球大会」は、企画したものの荒天のため中止せざるを得なかった。
 - ・地域との交流行事の一つである「大沼函館雪と氷の祭典」には、例年雪像製作作業を通して参加しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催が見送られた。

- ・視察見学は、新型コロナウイルス感染症禍の影響で減少し、合計7名（行政関係3名、司法関係4名）であった。
- 9 アフターケアを充実させ、児童の退所後を支援する（退所児童の相談支援）
- ・前年度に退所した児童4名を対象として、家庭訪問などによる方法で近況を把握し、相談支援を行った。
 - ・ほかに、過去の退所者についても、必要随時に施設職員が相談に応じた。

7 令和2年度生活支援について（総括）

主査 齊藤 利昭

○各寮の状況

<芝蘭寮>

・4月に室蘭児童相談所より中卒児童（新実科生）のA君が入所。6月に家庭裁判所の審判により、中央児童相談所より中学3年生のB君が入所。10月に旭川児童相談所より中学2年生のC君が入所。今年度は3名の入所があり、最大で7名の生活になりました。3月の年度末には、5名の児童が退園をしました。

<蛭雪寮>

・4月に札幌市児童相談所より中学1年生のD君が入所。5月には室蘭児童相談所より中学1年生のE君が入所。6月には岩見沢児童相談所より中学2年生のF君が入所。9月には札幌市児童相談所より小学5年生のG君が入所。今年度は4名の入所があり、最大で8名の生活になりました。3月の年度末には、4名の児童が退園をしました。

<芳泉寮>

・ももとはは休寮していた寮ですが、H君が寮担当職員とのトラブルから、関係修復が不可能となり、「所属寮での生活が出来ない」ということで、自立支援課長が10月から3月までの約5ヶ月間、芳泉寮でH君の支援を行いました。この間、自立支援課長は通常業務のほかに寮に泊まり込んで児童支援をすることになり多忙を極めました。そのH君も3月には退園して行きました。

<晩翠寮>

・5月に室蘭児童相談所より中学3年生のI君が入所。11月には岩見沢児童相談所より中学2年生のJ君が入所。12月には室蘭児童相談所より小学5年生のK君が入所。今年度は3名の入所があり、最大で8名の生活になりました。3月の年度末には、4名の児童が退園をしました。

○1年間の状況

<4月>

・3月末に予定されていた買い物訓練が、緊急事態宣言により延期となり、4月29日に実施。函館市内及び北斗市内への外出し、昼食は外食となりました。

・4月7日から分校の第1学期が始まったのも束の間。約2週間後に緊急事態宣言が発令され、休校となりました。この間は、学園職員の対応により、本館で学習活動やクラブ活動を行いました。

<5月>

・連休中の各寮の行事として、公衆浴場入浴や小沼：大沼湖畔のサイクリングを実施。

・分校が4月20日から休校になっていましたが、5月18日～22日までは週3日の午前授業が行われ、翌週の25日～29日までは毎日午前授業が行われました。

<6月>

・6月1日より分校では通常授業が再開されました。

・6月12日に予定されていた遠足は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止となりま

した。

< 7月 >

・ 7月1日～3日まで開催予定だった第69回全日本少年野球東北・北海道地区大会は、当園（北海道）が開催当番になっていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、残念ながら中止となりました。

・ 毎年7月下旬に実施されていたキャンプは、新型コロナウイルス感染予防の観点から園内での実施となりましたが、学園職員が工夫をこらし、児童たちが十分に楽しめるものとなりました。

< 8月 >

・ 8月3日～13日まで夏期一時帰省を実施。ここ数年は帰省出来る児童が少なく、残留児童が多いのが特徴です。残留した児童の残留行事は、モーターボート体験、レストランでの外食、園内での全体レク、函館山の登山、グリーンピア大沼でのパークゴルフやプールなど、児童たちが楽しめるものを実施しました。

< 9月 >

・ 9月11日～12日に予定されていた第71回大沼地区少年野球大会は、雨天のために、残念ながら中止となりました。

< 10月 >

・ 10月マラソン大会については、予定通りに実施。大沼湖畔を小学4年生は2km、小学5・6年生は3km、中学生以上は6kmにチャレンジしました。

< 11月 >

・ 11月7日に学園祭を実施。学園祭についても、新型コロナウイルス感染予防の観点から、来園者を制限し、例年よりも観客が少ない中での開催となりました。

< 12月 >

・ 12月24日に体育館で、もちつきを実施。手指消毒、換気に十分に気をつけながらの実施でしたが、児童は、つきたての餅をお腹いっぱい食べることが出来て、満足していました。

・ 12月28日～1月7日まで冬期一時帰省を実施。対象児童については、年度内の退園を予定している児童や進学などの必要な手続きなど実施しなければならない児童に限定しました。また、帰省した児童については、帰園後にPCR検査を実施しました。残留した児童の残留行事については、七飯スノーパークの1日スキー、園内でのDVD鑑賞（映画館に行くことが出来なかったため）、グリーンピア大沼でのボーリング、レストランでの外食、公衆浴場入浴など実施しました。

< 2月 >

・ 2月上旬に参加予定だった「大沼函館 雪と氷の祭典」の雪像作りは、新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベント自体が中止になり、参加できませんでした。

< 3月 >

・ 3月18日に、卒業生激励会を実施。従来は、職員と児童たちがお昼の会食をしながらの実施ですが、これも新型コロナウイルス感染予防の観点から会食を取りやめ、午後からの開催でした。各寮の余興については、ダンス、お笑い、歌などのバラエティーに富んだ内容で、学園職員の余興も盛り上がっていました。

・3月22日に来園者を保護者のみに限定して卒業証書授与式を実施。卒業生は、小学生1名。中学生6名の計7名で、授与式後、8名の児童が退園をしました。

○令和2年度を振り返って

令和元年に開寮された交替寮も2年目が過ぎようとしています。この仕事に全く携わることがなかった職員が、様々な課題を背負った子どもたちに日々悪戦苦闘し、子どもの対応に追われている状況に変わりはありません。日々の朝の打ち合わせの中でも、「悪態をついてきた。反抗してきた」「酷い暴言を吐いてきた。暴れた」「寮を飛び出した」「物を壊した」「ホールディングをした」「押し入れやトイレに籠もった」「対応した職員が子どもから叩かれた、蹴られた」などの報告が多く、聞いていて何とも言えない気持ちになりました。それでも寮の職員は誰一人として諦めず、粘り強く対応してくれました。交替寮の職員も確実に施設職員としての力をつけてきていると思います。

「この仕事は10年で一人前だよ」。約30年前に私がこの仕事に着任したときに先輩職員から言われた言葉です。交替寮の職員は一般的には3年～5年で異動をしていきます（あくまでも一般的にはです）中には3年にも満たないで異動する職員もいます。数年で本質的な子どもの支援や指導が十分にできるようになるほど、この仕事は甘くありません。30年近くこの仕事に携わっている私ですら、子どもの指導や支援には大いに悩み、苦しみ、試行錯誤の連続です。児童自立の施設職員として育ってきたと思った矢先に異動になります。人事や人材育成のあり方を考えて行かなければ、短期間で変わってはいけない大人がコロコロと変わります。それは、子どもたちにとっても施設にとっても良いことではないと感じます。人材育成はどの職種においても大きな課題であると感じます。

令和2年度はコロナウイルスの影響で、様々な行事が中止したり、縮小したりせざるを得ませんでした。次年度以降、どのような状況になるかは分かりませんが、関係機関や地域の方々の理解や協力無くして当園の運営は成り立ちません。今後も地域の行事に参加するなどして、地域の方々とのおふれあいを大切にしたいものです。私を含めて学園職員としては、まだまだ力不足を認めませんが、関係機関や地域の方々の理解や協力あればこそその児童支援です。学園が抱える課題も山積みですが、関係者の方々には変わらぬご支援の程、よろしくお願い致します。

8 児童入所退所一覽

(1) 芝蘭寮

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
計	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5

(2) 蛍雪寮

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
退所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
計	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	5

(3) 芳泉寮

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所 (転寮)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

(4) 晚翠寮

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1
退所	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	4
計	0	1	0	2	0	0	1	1	2	0	0	5

9 退所児の進路

(1) 芝蘭寮

3月退所S 1	家庭引き取り
3月退所S 2	家庭引き取り
3月退所S 3	ファミリーホームへ措置変更
3月退所S 4	児童養護施設へ措置変更
3月退所S 5	家庭引き取り

(2) 蛍雪寮

3月退所K 1	家庭引き取り
3月退所K 2	家庭引き取り
4月退所K 3	児童心理治療施設へ措置変更
3月退所K 4	児童養護施設へ措置変更

(3) 芳泉寮

3月退所H 1	児童養護施設へ措置変更
---------	-------------

(4) 晩翠寮

3月退所B 1	家庭引き取り
12月退所B 2	里親へ措置変更
3月退所B 3	児童養護施設へ措置変更
3月退所B 4	家庭引き取り
10月退所B 5	児童養護施設へ措置変更
3月退所B 6	家庭引き取り
7月退所B 7	措置変更

1 0 児童の基本情報

(1) 芝蘭寮

	入所期間	入所理由	年 齢	医療通院状況	措置児相
1	2年5ヶ月	養護要件	14歳	児童精神科	室蘭
2	2年3ヶ月	性的問題	13歳	児童精神科	函館
3	2年1ヶ月	ぐ犯行為	13歳	なし	釧路
4	1年3ヶ月	性的問題	15歳	なし	札幌
5	11ヶ月	性的問題	16歳	なし	室蘭
6	9ヶ月	生活指導	16歳	なし	札幌
7	5ヶ月	養護要件	15歳	児童精神科	旭川

(2) 蛭雪寮

	入所期間	入所理由	年 齢	医療通院状況	措置児相
1	1年6ヶ月	性的問題	15歳	なし	旭川
2	1年5ヶ月	性的問題	16歳	なし	函館
3	5ヶ月	養護要件	15歳	児童精神科	帯広
4	1年3ヶ月	ぐ犯行為	10歳	児童精神科	札幌
5	1年2ヶ月	生活指導	15歳	児童精神科	帯広
6	11ヶ月	性的問題	13歳	児童精神科	札幌
7	10ヶ月	養護要件	14歳	児童精神科	室蘭
8	9ヶ月	生活指導	14歳	なし	岩見沢
9	4ヵ月	性的問題	9歳	整形外科	札幌

(3) 芳泉寮

	入所期間	入所理由	年齢	医療通院状況	措置児相
1	1年6ヶ月	生活指導	14歳	児童精神科	旭川

(4) 晩翠寮

	入所期間	入所理由	年 齢	医療通院状況	措置児相
1	2年7ヶ月	生活指導	15歳	児童精神科	旭川
2	2年4ヶ月	養護要件	14歳	児童精神科	函館
3	1年9ヶ月	養護要件	15歳	児童精神科	札幌
4	1年6ヶ月	生活指導	15歳	児童精神科	札幌
5	6ヶ月	養護要件	9歳	児童精神科	旭川
6	10ヶ月	性的問題	15歳	なし	室蘭

7	7日	家裁審判	15歳	なし	札幌
8	4ヶ月	性的問題	14歳	なし	岩見沢
9	3ヶ月	生活指導	11歳	児童精神科	室蘭
10	28日	家裁審判	14歳	なし	中央

1 1 分校教育との連携と評価

(1) 在籍児童生徒数（令和2年3月19日時点）

校種	小学校			中学校					合計		
	4	特（5、6）		計	1	2	3	特（1、2）		計	
在籍数	1	2	1	4	1	4	7	1	1	14	18
学級数	1	1		2	1	1	1	1		4	6

(2) 授業日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小4	9	8	22	21	11	19	22	19	19	14	17	18	199
小5	9	8	22	21	11	19	22	19	19	14	17	18	199
小6	9	8	22	21	11	19	22	19	19	14	17	16	197
中1	9	8	22	21	11	19	22	19	19	14	17	18	199
中2	9	8	22	21	11	19	22	19	19	14	17	18	199
中3	9	8	22	21	11	19	22	19	19	14	17	16	197

(3) 分校との連携

大沼学園と分校については、福祉と教育という機関としての違いや、道と七飯町という設置者の違いはあるものの、児童生徒を指導支援するという共通の観点に立ち、目標や方法を相互理解し、情報共有し、連携して取組を進めていくこととしている。

また、計画的・組織的に情報交換や指導支援の工夫改善に関する協議（毎月開催される運営会議、毎日の朝・夕の打合せ）を行い、連携や調整を図るとともに、各種行事を共催したり、授業に大沼学園職員が加わるチーム・ティーチングを行うなど、互いの専門性を生かした指導を行っている。

1 2 実科

(1) 年間活動報告

月	内容
4月	花の移植、ポット土詰め、散水、雑草抜き
5月	花の移植、ポット土詰め、散水、雑草抜き、刈り払い、芝刈り
6月	花の移植、ポット土詰め、散水、雑草抜き、刈り払い、芝刈り 寄贈用プランター作成、中3生対象芝刈り機講習
7月	刈り払い、芝刈り、キャンプ準備
8月	刈り払い、芝刈り
9月	刈り払い、芝刈り、大沼地区少年野球大会用グラウンド整備、 マラソンコース整備
10月	イワナ沢自然学習林（敷地内池）清掃、水源地整備、剪定、ゴミ拾い
11月	落ち葉拾い、冬囲い、秋植えパンジーの定植、ハウス撤収
12月	除雪、排雪、融雪、版画カレンダー枠木作成、スキーメンテナンス
1月	除雪、排雪、融雪、溶接、木工、機械整備
2月	除雪、排雪、融雪、雪像制作使用物品研磨、溶接、木工、機械整備
3月	除雪、排雪、融雪、苗物芽だし、枝木剪定、ポット土詰め

(2) 実科生の個別目標と経過

学年・氏名	個別目標	支援経過
中卒1年 K・K	進学支援	高等支援学校へ進学。
中卒1年 Y・H	進学支援	高等支援学校へ進学。
中3 T・S	就職支援	企業へ就職。

(3) 地域貢献活動（苗物配布状況）

花種類
マリーゴールド（マーチイエロー、マーチオレンジ、ディスカバリーイエロー、ディスカバリーオレンジ） サルビア、トレニア、ベゴニア、ダイアンサス、ペチュニア、金魚草、ケイトウ、インパチェンス、ロベリア
総苗数
約14000株
主な配布先
地元の事業所、小中学校、保育園、大沼学園後援会、七飯町役場、函館市内児童養護施設、他

1 3 野球部

目的

「野球をとおして社会で生きていく上で必要な力を身につける。」

① 礼儀

- ・挨拶は対人関係の基本。しっかりとした挨拶の徹底を。
- ・練習に取り組む姿勢。常に礼儀正しく。

② 思いやり

- ・チームメイトに対して励ましや賞賛の声がけやミスをフォローする行動を。
- ・対戦相手に対しても激励や賞賛の声がけ等対戦相手を尊重する行動を。

③ 環境作り

- ・悪い環境では何事も成長できない。成長するには環境作りから。
- ・日頃から手入れを行い常にグラウンドは綺麗に。

④ 全力プレイ

- ・全力に取り組む事で他者の共感を得られる。
- ・プレイ中はもちろん攻守交代の場面やバッティング練習のボール集めの場面等でも全力プレイを心がける。

目標

- ①全国大会出場(真剣勝負を重ね、チームにおいて喜びも悔しさも体験する。
- ②取り組み続ける(継続は力なり)。
- ③野球部の活動を終える時、やって良かったと思えること。

概要

参加児童数	計 1 4 名 (中 3 生 4 名、中 2 生 7 名、中 1 生 3 名)
活動内容	・大会参加 第 7 1 回全日本少年野球東北・北海道地区宮城大会 中止 第 7 2 回大沼地区少年野球大会 中止 ・交流試合 7 月 4 日 渡島支庁野球部 7 月 1 8 日 大野中学校 7 月 2 3 日 せたな町役場 9 月 2 7 日 大野中学校
活動期間	4 月 9 日～9 月 1 3 日

1 4 小学生クラブ

(1) 目標と活動内容

- ア スポーツやその他の活動をとおして望ましい人間関係を形成し個性の伸長を図る。
 →バドミントンやバレーなどのスポーツを行ったほか、外での缶蹴りやかくれんぼといった様々な遊びを行った。そのほか、夏はスイカ割やかき氷、冬はかまくらづくりやそりすべりなど、季節ごとに学園の自然を生かした活動に取り組んだ。
- イ 体と心を育て、健康的な身体を得る。
 →上記アにも書いたとおり、スポーツ等を通して健康な身体づくりに励んだ。
- ウ スポーツや活動をとおしてルールやマナーを守ることの大切さを身につける。
 →遊びの中の「楽しいこと」だけではなく指導や児童同士のトラブルを通して、楽しい活動をする上でのルールやマナーの大切さを学ぶことができた。

(2) 活動状況

参加児童数	小学校 6 年生 1 名 小学校 5 年生 2 名 小学校 4 年生 1 名 小学校 3 年生 1 名 計 5 名
活動内容	・運動系メニュー ランニング・野球（キャッチボール・バッティング）・サッカー・自転車・バドミントン・バスケットボール・ソフトバレー・テニス・シャトルラン・フラフープ・T ボール・ドッチボール ほか ・その他 筋トレ・園内散策・スイカ割・工作（紙飛行機・スライムづくり）・DVD 鑑賞（野球など）・写真撮影・缶けり・そりすべり・かまくらづくり・生き物探し ほか
活動期間	(前期) 令和 2 年 4 月 7 日 (火) ～令和 2 年 9 月 28 日 (月) (後期) 令和 2 年 11 月 18 日 (水) ～令和 3 年 3 月 24 日 (水)

15 和太鼓クラブ

目標

- ① 他者と「協力する」、「合わせる」といった能力を身につける。

→ 協調性

- ② 「出来ないこと」を「出来ること」にするためチャレンジを続ける力を身につける

→ チャレンジ力、継続力

学園祭演目

- ① 郷の音

ふるさとを想うお囃子曲。七飯男爵太鼓創作会から提供していただいた曲。

- ② ヌプリ・トー

「ヌプリ」はアイヌ語で山を、「トー」は湖沼をそれぞれ表す言葉であり、佐藤三昭先生がここ大沼と駒ヶ岳をイメージし、大沼学園のために作曲して下さった曲。

- ③ 太鼓体験

観客に、大太鼓・宮太鼓を打つ機会を提供し、和太鼓を身近に感じてもらった。

概要

参加児童数	中学3年生9名、中学2年生5名、中学1年生2名 小学4年生1名、小学5年生1名、小学6年生1名 計 19名
活動内容	10月1日 練習開始、オリエンテーション 10月17日 佐藤三昭先生・七飯男爵太鼓創作会との練習会 11月7日 学園祭 11月13日 大沼岳陽学校公演会
活動期間	令和元年10月1日(木)～11月13日(金)

16 進学クラブ

(1) 令和2年度進学クラブ活動一覧表

11月	20日	オリエンテーション
2月	16日	私立高校A日程受験日
	19日	私立高校B日程受験日
3月	4日	公立高校受験日1日目
	5日	公立高校受験日2日目
	11日	高校生活について（講義）
	12日	学園生活を振り返って（作文）

(2) 期間

11/20（水）～3/12（金）

(3) 運営方法

ア 15:55～16:45

（5時間授業時14:55～16:45）（午前授業時13:55～16:45）

イ 16:45～17:00は短時間学習、掃除活動。

ウ 帰りの会終了後一旦帰寮し、活動開始時間に再登校し、進学クラブを開始する。

エ 活動に際して、高校入試までは鈴蘭谷分校教諭のサポートのもと進める。また、鈴蘭谷分校教諭がクラブに参加できない場合は、担当職員で対応する。入試以降は学園職員で対応する。

(4) 結果

ア 私立高校

合格6名（受験者8名）

イ 公立高校（定時制高校含む）

合格7名（受験者7名）

1 7 職員研修

(1) 園外職員研修

	研修名（開催地）	実施日	出席
1	新採用職員Ⅰ（前期）研修（ネット環境）	5月14/18/20/27/28日	3名
2	新任係長級研修	6月29日～30日	主査級1名
3	新採用職員Ⅰ（後期）研修	9月2日～4日	主事級1名
4	新採用職員Ⅰ（後期）研修	9月14日～15日	主任級1名
5	文章作成力向上（第4回）	10月2日	主任級1名
6	児童福祉施設心理職員経験交流研修会	10月16日～17日	主査級1名
7	北海道児童養護施設等基幹的職員研修（前期）	11月12日	主任級1名
8	東北・北海道地区児童自立支援施設協議会職員研修会	11月26日～27日	主事級1名
9	新採用職員Ⅱ（後期）研修	12月9日～11日	主事級1名
10	北海道児童養護施設等基幹的職員研修（後期）	12月15日	主任級1名

18 ケースカンファレンス

(1) ケースカンファレンス概要

大沼学園では月に一度、日々の状況や課題、今後の支援方針等について協議を行う支援会議を開いているほか、適宜ケースカンファレンスを行っている。

(2) 学年別実施人数（延人数と実人数）

	芝蘭寮	蛭雪寮	晩翠寮
中学1年生			
中学2年生	延人数1名 実人数1名		延人数1名 実人数1名
中学3年生	延人数1名 実人数1名		延人数1名 実人数1名
小学生			延人数1名 実人数1名
計	延人数5名（実人数5名）		

(3) 実施内容細目

	芝蘭寮	蛭雪寮	晩翠寮
無断外出について			
問題行動について	延人数2名 実人数2名		延人数3名 実人数3名
健康状態について			
現状の課題について			
今後の処遇方針について			
計	延人数5名（実人数5名）		

1 9 苦情解決

(1) 苦情及び経過の概要

R 2 - 1

苦情確認年月日、苦情申出方法と苦情を申し出た児童（学年）
令和2年12月21日（月） 意見箱へ投書 OS（中3生）
苦情内容
寮内で火災報知器が作動したが、消防署に連絡が行かなかった。火事になった際、危険を感じるので、消防署に連絡が届かなかった理由を調べてほしい。
処理の経過
<p>【対応】（苦情受付担当者：自立支援課長） 〈苦情の受付と事実確認〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ 12月21日、意見箱を開函し、当初を確認。・ 苦情申出児童が面接を希望する園長が、12月24日に当該児童と面接し、以下のとおり説明。・ 「火災報知器」は、ベル等で建物内にいる人の避難と初期消火活動を促すもの。各寮には「火災通報装置」が設置されており、火災時にボタンを押せば自動的に最寄りの消防署に火災通報がなされるようになっている。・ 申し出のあった当日は、TK（小5）が苛立ちを発散するために火災報知器を鳴らしたことが明らかだったため、当日の職員が「火災通報装置」を操作する必要はないと判断。結果的に消防署には連絡がいかなかった旨を説明。 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 苦情申出児童は、上記説明で納得した。・ 苦情申出児童から再度の苦情申出はない。

20 関係機関・地域との連携

活動名	実施日	内 容	関係機関
東北・北海道地区児童自立支援施設協議会役員会・施設長会議	5月21日	新型コロナウイルスの影響により今年度は書面にて実施	東北・北海道地区児童自立支援施設協議会
函館児童相談所 花壇整備	6月4日	園内で育成した苗を花壇に定植。 ボランティア活動。	函館児童相談所
薬物乱用防止教室	7月7日	鈴蘭谷分校が生活指導の一環として外部講師を招いて取り組む活動に児童・職員が参加	七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校
不審者被害防止教室	7月19日	鈴蘭谷分校が生活指導の一環として外部講師を招いて取り組む活動に児童・職員が参加	七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校
保育実習	8月17日 ～8月19日	名寄市立大学から実習生2名を受け入れ、保育実習を実施。	名寄市立大学
道政広報パネル展	10月12日 ～10月16日	広報活動の一環として児童の美術作品や版画カレンダー等を渡島総合振興局1階ホールにて展示。	渡島総合振興局
和太鼓クラブ練習会	10月17日	佐藤三昭先生、七飯男爵太鼓創作会を招いて練習会を実施。	七飯男爵太鼓創作会
函館家庭裁判所施設見学	10月29日	函館家庭裁判所職員が研修として当園の施設見学を実施。	函館家庭裁判所
東北・北海道地区児童自立支援施設協議会職員研修会	11月26日 ～11月27日	福島県立福島学園にて開催された職員研修会に参加。情報共有や協議を実施した。	東北・北海道地区児童自立支援施設協議会
版画カレンダー 配布開始	12月17日	毎年各寮にて児童が制作したカレンダーを関係機関、医療機関、関係者等に約400作配布	函館・北斗市内、七飯・森町内等
札幌家庭裁判所施設見学	1月28日	札幌家庭裁判所職員が研修として当園の施設見学を実施。	札幌家庭裁判所
性の講話会	2月9日	鈴蘭谷分校が生活指導の一環として外部講師を招いて取り組む活動に児童・職員が参加。	七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校

2 1 退所児童事後支援（アフターケア）について

1 目的

大沼学園を退園し、なお支援を要する児童及び家族に対し、家庭、学校、職場等を訪問または通信をとおり、適時適切な助言を行い、児童の自立支援を促進することを目的とする。

2 実施方法

(1) 保護者同意

(2) 訪問指導による助言等

ア 自立指導係長、生活指導係長と協議し、措置児童相談所と連携して実施する。

イ 必要に応じて、児童相談所を介して「要保護児童対策地域協議会」の開催依頼を行い、必要な地域支援体制を構築する。

ウ 他児童福祉施設措置変更児童については、当該機関より求めがない限り除外する。

エ 原則、道外居住児童は対象外とする。

オ 児童が在住している地域へ出張する場合は、出身寮職員が連絡調整する。

(3) 電話、手紙、メール等による助言等

ア 出身寮職員は、概ね毎月1回、電話連絡等にて児童及び保護者等から生活状況等の困難さを聴取し、必要な助言を行う。

イ 道外就職者については、家庭との連絡を密にし、アと同様な対応を行うと共に、必要に応じて、措置児童相談所と協議し、道外児童相談所と相互連携等を依頼する。

(4) 来園、通信による助言等

児童、保護者等からの電話連絡、来園などがあつた場合には、生活状況等の困難さを聴取し、必要な助言を行う。

3 アフターケア実施件数

	芝蘭	蛭雪	芳泉	晩翠	計
受電	11	0	0	0	11
架電	0	0	0	3	3
メール	0	0	0	0	0
来園	1	0	0	0	1
訪問	0	0	0	1	1
計	12	0	0	4	16

2 2 要保護児童対策地域協議会個別ケース会議への参加

実 施 日	場 所
令和3年3月10日(月)	A市(A市総合保健センター)
<p><出席者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・A 児童相談所 担当福祉司 ・A 高等養護学校 主任 ・B 高等養護学校 担当者 ・A 方面本部 生活安全課 係長 ・A 市子ども未来部次世代育成課 主査、相談員 ・A 中央警察署 警察補 ・北海道立大沼学園 担当寮長、担当福祉指導員 	
<p><協議概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当児童(中卒生)において、令和3年3月に当園を退園し、B高等養護学校へ進学予定である。そのため行政期間、教育機関、担当児童相談所等と要保護児童対策協議会を実施。 ・該当児童の現状及び家庭状況、抱えている問題について情報共有を図り、今後の支援方針について検討。A児童相談所が定期的に該当児童世帯の家庭訪問を実施していくこと。B高等養護学校での生活状況や生じた問題等を適宜各担当機関に情報提供を行っていくことを確認。 ・当学園では該当児童の退園予後支援を実施予定であり、措置解除後も支援を継続していく予定である。 	

実 施 日	場 所
令和3年3月10日(月)	A市(A市総合保健センター)
<p><出席者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・A 児童相談所 担当福祉司 ・A 中学校 担当教諭 ・A 教育委員会 ・A 方面本部 生活安全課 係長 ・A 市子ども未来部次世代育成課 主査、相談員 ・A 中央警察署 警察補 ・北海道立大沼学園 担当寮長 	

<協議概要>

- ・該当児童（小6）において令和3年3月に当園を退園し、A中学校へ進学予定である。そのため行政期間、教育機関、担当児童相談所等と要保護児童対策協議会を実施。
- ・該当児童の現状及び家庭状況、抱えている問題について情報共有を図り、今後の支援方針について検討。各関係機関が連携して該当児童を支援していくことを確認した。
- ・当学園では該当児童の退園予後支援を実施予定であり、措置解除後も支援を継続していく予定である。

2 3 給食業務

指導専門員（栄養士） 熊澤 美雪

大沼学園は給食の業務委託により民間の業者が入って食事を提供するようになり、すでに10年以上がたっております。

当初はいろいろな不安や、失敗もありましたが、現在はとてもよい調理人さんに恵まれ毎日おいしいものを、温かく、見た目もキレイに提供されております。

生徒は学園に来るまでは、きちんとした食事を朝、昼、晩としっかり食べていた経験が乏しく、また誰かといっしょに食べるという経験も少なく、「個食」により、お菓子などのいわゆる「ジャンクフード」を食べていたケースが多いようです。

「味覚」は食べることによって覚えて、大人になるにしたがって食べる経験により増えていきます。子供のころ苦手だったものが大人になって好きになったことはないでしょうか。

園生は皆、家庭での「経験」が少なく、学園で提供する給食も苦手なものが多いです。

集団給食ではひとりひとりの「好きキライ」に対応できませんので、平均的なところで提供しますが、いわゆる昔ながらの「おばあちゃんのおぼんざい」的なものや「ごっこ汁」のような「郷土料理」は経験がないので、ほとんどの生徒が苦手です。だからといって提供しないと「経験」することができず、その味も料理も知らないまま大人になってしまいますので、量をひかえめに提供したりしています。



みんなで規則正しい生活のなかで、きちんと温かいおいしいものを仲良く食べて、マナーを身につけられるようにと、心がけていますが、今年はコロナ禍により食事を伴う行事は、ほとんど中止や縮小されてしまいました。また普段の食事でも感染防止のために「黙食」を心がけて、静かな食卓をかこんでいます。早くコロナが終息して「楽しい食事」ができる日を楽しみにしています。

2.4 心理業務

当学園では、平成25年度から専任の心理士が配置され、以下のような活動を行っている。

(1) 心理面接・心理療法

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
個別面接・療法	549	489	421	378	276
集団療法	28	56	0	0	26
	82	64	0	0	51
家族面接	5	1	0	0	0

集団療法：上段～実回数 下段～述べ人数

- *個別面接・療法では、入所時と、その後3ヵ月毎のアセスメントのほか、必要に応じて、性加害児童支援プログラムやトラウマ・ケア、SST、感情のコントロールなど心理教育、遊戯療法、箱庭療法等を行っている。
- *集団療法については、平成28年度以降は実科生にSSTを行っている。平成29年度は実科生がいなかったため実施していない。平成30年度は実科生は在籍していたが1名だったので個別療法でカウントしている。令和元年度は実科生がいなかったため、実施していない。令和2年度は実科生が2名在籍したため実施している。

(2) 心理検査

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
バウムテスト	136	128	81	75	83
TSCC	12	9	10	8	4
その他	5	48	28	30	50

- *バウムテストは、入所時と3ヵ月毎のアセスメント時などに実施。
- *TSCCは、入所前に見相で実施していない場合、必要に応じて実施。
- *その他は、P-Fスタディ、YG性格検査、UCLA・PTSDインデックス、雨の中の私画等を実施したもの。

(3) 生活場面面接

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
面接回数	667	944	1575	1080	347

- *生活場面面接には、新入生受け入れ時や退園時、行事、帰省付添時等での会話を含む。

(4) 施設職員等への助言・指導等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数	1079	685	861	752	552

- *すべての心理面接・心理療法の結果を分校教諭も含めて、児童の支援に関わる職員に周知しているほか、必要に応じて、児童の心理状態や関わり方等について情報交換を行っている。

(5) 支援会議等への出席

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
出席回数	71	120	87	61	83

(6) 性加害児童支援プログラム

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実人数	2	5	5	3	3
面接回数	75	43	78	32	27

- *平成28年度の2名は、前年度に性的問題を主訴として入所した児童で、年度内にプログラムを終了した。
- *平成29年度の5名のうち3名は1度当園または他機関でプログラムを終了しているが、アフターケアとしてプログラムの復習を行っている。
- *平成30年度の5名のうち3名は、前年度に性的問題を主訴として入所した児童で、年度内にプログラムを終了した。また1名は他機関でプログラムを終了しているが、アフターケアとして当園でプログラムの復習を行っている。
- *令和元年度の3名のうち1名は、前年度に性的問題を主訴として入所した児童で、年度内にプログラムを終了した。
- *令和2年度の3名のうち1名は、平成30年度に性的問題行動を主訴として入所した児童であり、3名とも年度内にプログラムを終了している。

(7) 精神科嘱託医による診察・コンサルテーション

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実人数	11	8	21	19	19
延べ人数	32	43	35	32	30

- *平成25年度から、月1回、精神科嘱託医が来園し、診察、コンサルテーション等を実施。
- *平成30年度から全新入園生に対し、嘱託医による診察を行っている。

2 5 業務統計

令和3年3月31日現在
北海道立大沼学園

1 定員・在籍数

定員	暫定定員	在籍数	措置停止数	入所率	別荘・一時保護委託
48	26	11	(1)	22.9%	0

2 年齢構成(在籍分)

年齢	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	合計
人員	0	0	1	2	1	2	5	0	0	0	0	11
%	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	18.2	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

3 入所時の年齢構成①(在籍分)

年齢	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合計
人員	0	1	2	1	2	2	3	0	0	0	11
%	0.0	9.1	18.2	9.1	18.2	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0	100.0

4 入所時の年齢構成②(本年度入所分)

年齢	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合計
人員	0	0	2	0	1	2	4	1	0	0	10
%	0.0	0.0	20.0	0.0	10.0	20.0	40.0	10.0	0.0	0.0	100.0

5 就学等の状況①(在籍分)

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	中卒1	中卒2	中卒3	高1	高2	高3	合計
人員	0	0	1	2	1	2	5	0	0	0	0	0	0	0	11
%	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	18.2	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

6 入所時の就学等の状況①(在籍分)

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	中卒1	中卒2	中卒3	高1	高2	高3	合計
人員	0	1	0	2	2	2	4	0	0	0	0	0	0	0	11
%	0.0	9.1	0.0	18.2	18.2	18.2	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

7 入所時の就学等の状況②(本年度入所分)

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	中卒1	中卒2	中卒3	高1	高2	高3	合計
人員	0	0	0	2	0	2	3	2	1	0	0	0	0	0	10
%	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

8 入所時の知能指数(在籍分)

知能指数	～75	～85	～95	～105	～115	～125	126～	不詳	合計
人員	2	2	3	1	3	0	0	0	11
%	18.2	18.2	27.3	9.1	27.3	0.0	0.0	0.0	100.0

9 在籍期間(在籍分)

期間	3ヶ月未満	6ヶ月未満	1年未満	1年半未満	2年未満	2年以上	合計
人員	2	3	3	2	0	1	11
%	18.2	27.3	27.3	18.2	0.0	9.1	100.0

10 入所前の問題行動(在籍分)

	怠学	金銭持出	飲酒喫煙	外泊	家出	徘徊	不良交友	詐欺	恐喝	暴力行為	性的非行	放火	無免許運転
人員	3	4	1	0	2	0	1	0	0	6	1	0	1
%	27.3	36.4	9.1	0.0	18.2	0.0	9.1	0.0	0.0	54.5	9.1	0.0	9.1
	自動車窃盗	侵入窃盗	車上窃盗	その他の窃盗	暴走行為	売春	自傷行為	薬物等乱用	不登校	家庭内暴力	反抗・強情・虚言・かんしゃく	その他	
人員	1	0	0	3	0	0	2	0	2	4	0	3	
%	9.1	0.0	0.0	27.3	0.0	0.0	18.2	0.0	18.2	36.4	0.0	27.3	

11 保護者の状況(在籍分/入所時)

	実父実母	実父養母	養父実母	実父のみ	実母のみ	実父継母	実母継父	実父内妻	実母内夫	その他	合計
人員	2	0	1	1	4	0	0	1	0	2	11
%	18.2	0	9.1	9.1	36.4	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	100.0

12 保護者の経済状況(在籍分/入所時)

	上	中	下	生活保護	合計
人員	0	5	6	0	11
%	0.0	45.5	54.5	0.0	100.0

13 保護者の職業(在籍分/入所時)

職業	管理	専門・技術	事務	販売	サービス	保安	農林漁業	生産工程	輸送・機械運転	建設・採掘	運搬・清掃・包装等	その他	無職	合計
人員	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	0	4	2	11
%	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	0.0	36.4	18.2	100.0

14 措置児童相談所(在籍分)

児相	中央	旭川	函館	帯広	釧路	北見	岩見沢	室蘭	札幌市	合計
人員	1	1	0	0	0	0	3	3	3	11
%	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	27.3	27.3	100.0

15 家庭裁判所ケース(在籍分)

人員	1
%	9.1

16 月別入退所状況(令和2年度)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入所数	2	2	2	1	0	0	1	1	1	0	0	2	12
退所数	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	13	17

(平成31年度)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入所数	0	0	2	0	2	1	1	2	3	0	0	1	12
退所数	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	6	11

17 退所後の進路状況(令和2年度)

	家庭復帰	施設等	単独自立	その他	再判定	合計
復学						
進学	7	5				12
就職	1					1
その他		1		2	1	4
合計	8	6		2	1	17

(平成31年度)

	家庭復帰	施設等	単独自立	その他	再判定	合計
復学	5	1				6
進学	5	1				6
就職						0
その他				2		2
合計	10	2	0	2	0	14

18 月別無断外出状況

※発生月に計上すること。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	0	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	6
延人員	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4

19 年度別の無断外出状況(過去5年度)

年度	28	29	30	31	R2
件数	2	1	0	1	6
延人員	2	1	0	1	4

20 被虐待経験(疑いを含む)(在籍分)

	有	無	合計
人員	19	-8	11
%	172.7	-72.7	100.0

虐待の分類 ※主たるもの、従たるものを計上すること。

	身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待	合計
人員	5	0	3	3	11
%	45.5	0.0	27.3	27.3	100.0

21 発達障害(疑いを含む)(在籍分)

	有	無	合計
人員	21	-10	11
%	190.9	-90.9	100.0

発達障害の分類

	広汎性発達障害	学習障害	注意欠陥多動性障害	その他	合計
人員	5	0	6	2	13
%	38.5	0.0	46.2	15.4	100.0

26 あとがき

令和3年の「がくえんのようす」（令和2年度実績）は、昨年と同様に数多くの職員で役割分担をしながら編集しました。今年度も引き続き「記録性」を重視し、園長の挨拶を筆頭に分校教頭、庶務課、寮担当職員、クラブ担当職員、栄養士、心理士と多方面から実績や評価を集めました。編集する中で、大沼学園の長い歴史、子どもの状況、大沼学園として取り組んだ行事などを職員自身が知り、振り返る機会にもなりました。

元年に交代制が導入され、大沼学園の文化も変化するこの中、児童の様子も時代と共に移り変わっていくことを実感したところです。移り変わっていくもの、変わらないものそれぞれを記録として残す、そんな「学園のようす」となっていると幸いです。

